

- 1 皇帝テベリオオ在位の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟ピリポがイツリヤ・テラコニテ地方の領主、ルサニヤがアビレネの領主、
- 2 アンナスとカヤパとが大祭司であったとき、神の言が荒野でザカリヤの子ヨハネに臨んだ。
- 3 彼はヨルダンのほとりの全地方に行つて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えた。
- 4 それは、預言者イザヤの言葉の書に書いてあるとおりである。すなわち「荒野で呼ばれる者の声がする、
『主の道を備えよ、
その道筋をまつすぐにせよ。』」
- 5 すべての谷は埋められ、
すべての山と丘とは、平らにされ、
曲つたところはまつすぐに、
わるい道はならされ、
- 6 人はみな神の救を見るであろう」。
- 7 さて、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出てきた群衆にむかつて言つた、「まむしの子らよ、追つてきている神の怒りから、のがれられると、おまえたにだれが教えたのか。
- 8 だから、悔改めにふさわしい実を結べ。自分たちの父にはアブラハムがあるなどと、心の中で思つてもみるな。おまえたちに言つておく。神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子を起すことができるのだ。
- 9 斧がすでに木の根もとに置かれている。だから、良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれるのだ」。
- 10 そこで群衆が彼に、「それでは、わたしたちは何をすればよいのですか」と尋ねた。
- 11 彼は答えて言つた、「下着を二枚もっている者は、持たない者に分けてやりなさい。食物を持つてゐる者も同様になさい」。
- 12 取税人もバプテスマを受けにきて、彼に言つた、「先生、わたしたちは何をすればよいのですか」。
- 13 彼らに言つた、「きまつてゐるもの以上に取り立ててはいけない」。
- 14 兵卒たちもたずねて言つた、「では、わたしたちは何をすればよいのですか」。彼は言つた、「人をおどかしたり、だまし取つたりしてはいけない。自分の給与で満足していなさい」。
- 15 民衆は救主を待ち望んでいたのです、みな心の中でヨハネのことを、もしかしたらこの人がそれではなからうかと考えていた。
- 16 そこでヨハネはみんなの者にむかつて言つた、「わたしは水でおまえたちにバプテスマを授けるが、わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。わたしには、そのくつひもを解く値うちもない。このかたは、聖霊と火によつておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう。
- 17 また、箕を手持つて、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め、からは消えない火で焼き捨てるであろう」。
- 18 こうしてヨハネはほかにもなお、さまざまの勧めをして、民衆に教を説いた。
- 19 ところが領主ヘロデは、兄弟の妻ヘロデヤのことで、また自分がしたあらゆる悪事について、ヨハネから非難されていたので、
20 彼を獄に閉じ込めて、いろいろな悪事の上に、もう一つこの悪事を重ねた。

- 21 さて、民衆がみなバプテスマを受けたとき、イエスもバプテスマを受けて祈つておられると、天が開けて、
22 聖霊がはどのような姿をとつてイエスの上に下り、そして天から声がした、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。
- 23 イエスが宣教をはじめられたのは、年およそ三十歳の時であつて、人々の考えによれば、ヨセフの子であつた。ヨセフはヘリの子、
- 24 それから、さかのぼつて、マタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、
- 25 マタテヤ、アモス、ナホム、エスリ、ナンガイ、
- 26 マハテ、マタテヤ、シメイ、ヨセク、ヨダ、
- 27 ヨハナン、レサ、ゾロバベル、サラテル、ネリ、
- 28 メルキ、アデイ、コサム、エルマダム、エル、
- 29 ヨシユア、エリエゼル、ヨリム、マタテ、レビ、
- 30 シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリヤキム、
- 31 メレヤ、メナ、マタタ、ナタン、ダビデ、
- 32 エツサイ、オベデ、ボアズ、サラ、ナアソン、
- 33 アミナダブ、アデミン、アルニ、エスロン、パレス、ユダ、
- 34 ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、
- 35 セルグ、レウ、ベレグ、エベル、サラ、
- 36 カイナン、アルバクサデ、セム、ノア、ラメク、
- 37 メトセラ、エノク、ヤレデ、マハラレル、カイナン、
- 38 エノス、セツ、アダム、そして神にいたる。
- 1 さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダン川から帰り、
2 荒野を四十日のあいだ御霊にひきまわされて、悪魔の試みにあわれた。そのあいだ何も食はず、その日数がつきると、空腹になられた。
- 3 そこで悪魔が言つた、「もしあなたが神の子であるなら、この石に、パンになれと命じてごらんなさい」。
- 4 イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」。
- 5 それから、悪魔はイエスを高い所へ連れて行き、またたくまに世界のすべての国々を見せて
- 6 言つた、「これらの国々の権威と栄華とをみんな、あなたにあげましょう。それらはわたしに任せられていて、だれでも好きな人にあげてよいのですから。
- 7 それで、もしあなたがわたしの前にはひざまずくなら、これを全部あなたのものにしてあげましょう」。
- 8 イエスは答えて言われた、『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。
- 9 それから悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、宮の頂上に立たせて言つた、「もしあなたが神の子であるなら、ここから下へ飛びおりてごらんなさい」。
- 10 『神はあなたのために、御使たちに命じてあなたを守らせるであろう』とあり、
- 11 また、『あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』とも書いてあります」。
- 12 イエスは答えて言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』と言われている」。
- 13 悪魔はあらゆる試みをしつくして、一時イエスを離れた。

4

14それからイエスは御霊の力に満ちあふれてガリラヤへ帰られると、そのうわさがその地方全体にひろまった。

15イエスは諸会堂で教え、みんなの者から尊敬をお受けになった。

16それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。

17すると預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を出された、

18「主の御霊がわたしに宿っている。

貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、

わたしを聖別してくださったからである。

主はわたしをつかわして、

囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、

打ちひしがれている者に自由を得させ、

19主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。

20イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、席に着かれると、会堂にいるみんなの者の目がイエスに注がれた。

21そこでイエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。

22すると、彼らはみなイエスをほめ、またその口から出て来るめぐみの言葉に感嘆して言った、「この人はヨセフの子ではないか」。

23そこで彼らに言われた、「あなたがたは、きつと『医者よ、自分自身をいやせ』ということわざを引いて、カペナウムで行われたと聞いていた事を、あなたの郷里のこの地でもしてくれ、と言うであらう」。

24それから言われた、「よく言っておく。預言者は、自分の郷里では歓迎されないものである。

25よく聞いておきなさい。エリヤの時代に、三年六か月にわたって天が閉じ、イスラエル全土に大ききんがあった

26エリヤは多くのやもめがいたのに、ただシドン

27また預言者エリシャの時代に、イスラエルには多くのらい病人がいたのに、そのうちのひとりもきよめられな

28会堂にいた者たちはこれを聞いて、みな憤りに満ち、

29立ち上がってイエスを町の外へ追い出し、その町が建つ

30している丘のがけまでひっぱって行って、突き落そうとした。

31しかし、イエスは彼らのまん中を通り抜けて、去って行

32された。

4

31それから、イエスはガリラヤの町カペナウムに下って行かれた。そして安息日になると、人々をお教えになつたが、

32その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。

33すると、汚れた悪霊につかれた人が会堂にいて、大声で叫び出した、

34「ああ、ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。

35イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると悪霊は彼を人なかに投げ倒し、傷

36は負わずに、その人から出て行った。

37みんなの者は驚いて、互に語り合って言った、「これは、いったい、なんという言葉だろう。権威と力をもつて汚れた霊に命じられると、彼らは出て行くのだ」。

38こうしてイエスの評判が、その地方のいたる所にひろま

39つていった。

38イエスは会堂を出てシモンの家にはいりになった。ところがシモンのしゅうとめが高い熱を病んでいたので、人々は彼女のためにイエスにお願いした。

39そこで、イエスはそのままに立つて、熱が引くように命じられると、熱は引き、女はすぐに起き上がり

40て、彼らをもてなした。

40日が暮れると、いろいろな病気になるやむ者をかかえて

41る人々が、皆それをイエスのところに連れてきたので、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしになった。

42悪霊も「あなたこそ神の子です」と叫びながら多くの

43人々から出ていった。しかし、イエスは彼らを戒めて、物を言うこと

44をお許しにならなかつた。彼らがイエスはキリストだと知っていたからである。

42夜が明けると、イエスは寂しい所へ出て行かれたが、

43群衆が捜しまわって、みもとに集まり、自分たちから離れて行

44られないようにと、引き止めた。

43しかしイエスは、「わたしは、ほかの町々にも神の国の

44福音を宣べ伝えねばならない。自分はそのためにつかわされたのである」と言われた。

44そして、ユダヤの諸会堂で教を説かれた。

1 さて、群衆が神の言を聞くこととして押し寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に立っておられたが、
 2 そこに二その小舟が寄せてあるのをごらんになった。漁師たちは、舟からおりて網を洗っていた。
 3 その一そのはシモンの舟であったが、イエスはそれに乗り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群衆にお教えになった。
 4 話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁を試みなさい」と言われた。
 5 シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましよう」。
 6 そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいって、網が破れそうになった。
 7 そこで、もう一そのの舟にいた仲間、加勢に来るよう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそうになった。
 8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。
 9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。
 10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。
 11 そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従った。
 12 イエスがある町におられた時、全身らい病になっている人がそこにいた。イエスを見ると、顔を地に伏せて願って言った、「主よ、みこころでしたら、きよめていただけなのですが」。
 13 イエスは手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。すると、らい病がただちに去ってしまった。
 14 イエスは、だれにも話さないようにと彼に言い聞かせ、「ただ行って自分のからだを祭司に見せ、それからあなたのきよめのため、モーセが命じたとおりのささげ物をして、人々に証明しなさい」とお命じになった。
 15 しかし、イエスの評判はますますひろまって行き、おびただしい群衆が、教を聞いたり、病気をなおしてもらったりするために、集まってきた。
 16 しかしイエスは、寂しい所に退いて祈っておられた。

17 ある日のこと、イエスが教えておられると、ガリラヤやユダヤの方々の村から、またエルサレムからきたパリサイ人や律法学者たちが、そこにすわっていた。主の力が働いて、イエスは人々をいやされた。
 18 その時、ある人々が、ひとりの中風をわずらっている人を床にのせたまま連れてきて、家の中に運び入れ、イエスの前に置こうとした。
 19 ところが、群衆のためにどうしても運び入れる方法がなかったので、屋根にのぼり、瓦をはいで、病人を床ごと群衆のまん中につりおろして、イエスの前においた。
 20 イエスは彼らの信仰を見て、「人よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。
 21 すると律法学者とパリサイ人たちは、「神を汚すことを言うこの人は、いったい、何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」と言って論じはじめた。
 22 イエスは彼らの論議を見ぬいて、「あなたがたは心の中で何を論じているのか」。
 23 あなたの罪はゆるされたと言うのと、起きて歩けと言うのと、どちらがたやすいか。
 24 しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威を持っていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに対して言い、中風の者にむかって、「あなたに命じる。起きよ、床を取り上げて家に帰れ」と言われた。
 25 すると病人は即座にみんなの前で起きあがり、寝ていた床を取りあげて、神があがめながら家に帰って行った。
 26 みんなの者は驚嘆してしまった。そして神があがめ、おそれに満たされて、「きょうは驚くべきことを見た」と言った。

27そののち、イエスが出て行かれると、レビという名の
 取税人が取税所にすわっているのを見て、「わたしに従
 ってきなさい」と言われた。
 28すると、彼はいつさいを捨てて立ちあがり、イエスに従
 ってきた。
 29それから、レビは自分の家で、イエスのために盛大な
 宴会を催したが、取税人やそのほか大ぜいの人々が、
 共に食卓に着いていた。
 30ところが、パリサイ人やその律法学者たちが、イエスの
 弟子たちに対してつぶやいて言った、「どうしてあなた
 がたは、取税人や罪人などと飲食を共にするのか」。
 31イエスは答えて言われた、「健康な人には医者はいらな
 い。いるのは病人である」。
 32わたしが来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招
 いて悔い改めさせるためである」。
 33また彼らはイエスに言った、「ヨハネの弟子たちは、し
 ばしば断食をし、また祈をしており、パリサイ人の
 弟子たちもそうしているのに、あなたの弟子たちは食
 べたり飲んだりしています」。
 34するとイエスは言われた、「あなたがたは、花婿が一緒
 にいるのに、婚礼の客に断食をさせることができるで
 あろうか」。
 35しかし、花婿が奪い去られる日が来る。その日には断食
 をするであらう」。
 36それからイエスはまた一つの譬を語られた、「だれも、
 新しい着物から布ぎれを切り取って、古い着物につぎ
 を当てるものはない。もしそんなことをしたら、新し
 い着物を裂くことになるし、新しいのから取った布ぎ
 れも古いのに合わないであらう」。
 37まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れはしな
 い。もしそんなことをしたら、新しいぶどう酒は皮袋
 をはり裂き、そしてぶどう酒は流れ出るし、皮袋もむ
 だになるであらう」。
 38新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである。
 39まただれも、古い酒を飲んでから、新しいのをほしがり
 はしない。『古いのが良い』と考えているからである」。

1ある安息日にイエスが麦畑の中をとおって行かれたと
 き、弟子たちが穂をつみ、手でもみながら食べていた。
 2すると、あるパリサイ人たちが言った、「あなたがたは
 なぜ、安息日にしてはならぬことをするのか」。
 3そこでイエスが答えて言われた、「あなたがたは、ダビ
 デとその供の者たちが飢えていたとき、ダビデのし
 たことについて、読んだことがないか」。
 4すなわち、神の家にはいつて、祭司たちのほかだれも食
 べてはならぬ供えのパンを取って食べ、また供の者た
 ちにも与えたではないか」。
 5また彼らに言われた、「人の子は安息日の主である」。
 6また、ほかの安息日に会堂にはいつて教えておられたと
 ころ、そこに右手のなえた人がいた。
 7律法学者やパリサイ人たちは、イエスを訴える口実を
 見付けようと思つて、安息日にいやされるかどうかを
 うかがつていた。
 8イエスは彼らの思っていることを知つて、その手のなえ
 た人に、「起きて、まん中に立ちなさい」と言われる
 と、起き上がつて立つた。
 9そこでイエスは彼らにむかつて言われた、「あなたがた
 に聞くが、安息日に善を行うのと悪を行うのと、命を
 救うのと殺すのと、どちらがよいか」。
 10そして彼ら一同を見まわして、その人に「手を伸ばしな
 さい」と言われた。そのとおりにすると、その手は元
 どおりになった。
 11そこで彼らは激しく怒つて、イエスをどうかしてやろう
 と、互に話し合いをはじめた。

12 このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。

13 夜が明けると、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。

14 すなわち、ペテロとも呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、

15 マタイとトマス、アルパヨの子ヤコブと、熱心党と呼ばれたシモン、

16 ヤコブの子ユダ、それからイスカリオテのユダ。このユダが裏切者となつたのである。

17 そして、イエスは彼らと一緒に山を下つて平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、

18 ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、

19 18 教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた霊に悩まされている者たちも、いやされた。

20 また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。

21 そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあなたがたのものである。

22 あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りるようになるからである。

23 あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。

24 人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。

25 その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。彼らの祖先も、預言者

26 たちに対して同じことをしたのである。

27 しかしあなたがた富んでいる人たちは、わざわいだ。慰めを受けてしまっているからである。

28 あなたがた今満腹している人たちは、わざわいだ。飢えるようになるからである。

29 あなたがた今笑っている人たちは、わざわいだ。悲しみ泣くようになるからである。

30 26 人が皆あなたがたをほめるときは、あなたがたはわざわいだ。彼らの祖先も、にせ預言者たちに対して同じことをしたのである。

27 しかし、聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、憎む者に親切にせよ。

28 のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ。

29 あなたの頬を打つ者にはほかの頬をも向けてやり、あなたの上着を奪い取る者には下着をも拒むな。

30 あなたに求める者には与えてやり、あなたの持ち物を奪う者からは取りもどそうとするな。

31 32 人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。

32 自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる者を愛している。

33 34 自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。

35 また返してもらつつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。

36 しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き者の子となるであろう。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、

37 なさけ深いからである。

38 あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。

39 37 人をさばくな。そうすれば、自分もさばかれることがないであろう。また人を罪に定めるな。そうすれば、

40 自分も罪に定められることがないであろう。ゆるしてやれ。そうすれば、自分もゆるされるであろう。

41 38 与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆるし入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りか

42 えされるであろうから」。

39 イエスはまた一つの譬を語られた、「盲人は盲人の手引が
 できようか。ふたりとも穴に落ち込まないだろうか。
 40 弟子はその師以上のものではないが、修業をつめば、み
 なその師のようになろう。
 41 なぜ、兄弟の目にあるちりを見ながら、自分の目にある
 梁を認めないのか。
 42 自分の目にある梁は見ないでいて、どうして兄弟にむか
 つて、兄弟よ、あなたの目にあるちりを取らせてくだ
 さい、と言えようか。偽善者よ、まず自分の目から梁
 を取りのけるがよい、そうすれば、はっきり見えるよ
 うになって、兄弟の目にあるちりを取りのけることが
 できるだろう。
 43 悪い実のなる良い木はないし、また良い実のなる悪い木
 もない。
 44 木はそれぞれ、その実でわかる。いばらからいちじくを
 取ることはないし、野ばらからぶどうを摘むこともな
 い。
 45 善人は良い心の倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉
 から悪い物を取り出す。心からあふれ出ることを、口
 が語るものである。
 46 わたしを主よ、主よ、と呼びながら、なぜわたしの言う
 ことを行わないのか。
 47 わたしのもとにきて、わたしの言葉を聞いて行う者が、
 何に似ているか、あなたがたに教えよう。
 48 それは、地を深く掘り、岩の上に土台をすえて家を建て
 る人に似ている。洪水が出て激流がその家に押し寄せ
 てきても、それを揺り動かすことはできない。よく建
 ててあるからである。
 49 しかし聞いても行わない人は、土台なしで、土の上に家
 を建てた人に似ている。激流がその家に押し寄せてき
 たら、たちまち倒れてしまい、その被害は大きいので
 ある」。

1 イエスはこれらの言葉をことごとく人々に聞かせてしま
 ったのち、カペナウムに帰つてこられた。
 2 ところが、ある百卒長の頼みにしていた僕が、病気になる
 3 この百卒長はイエスのことを聞いて、ユダヤ人の長老た
 ちをイエスのところにつかわし、自分の僕を助けにき
 4 てくださるようにと、お願いした。
 5 「あの人はそうしていただくねうちがごさいます。
 6 そこで、イエスは彼らと連れだつてお出かけになった。
 7 ところが、その家からほど遠くないあたりまでこられ
 たとき、百卒長は友だちを送つてイエスに言させた、
 「主よ、どうぞ、ご足労くださいませぬように。わたしは
 の屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしには
 8 ございません。
 9 それですから、自分でお迎えにあがるねうちさえないと
 10 思っていたのです。ただ、お言葉を下さい。そして、
 わたしの僕をなおしてください。
 11 わたしも権威の下に服している者ですが、わたしの下に
 も兵卒がいます、ひとりの者に『行け』と言えば行
 き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、僕
 12 に『これをせよ』と言えば、してくれるのです」。
 13 イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた群衆
 14 の方に振り向いて言われた、「あなたがたに言っておく
 15 が、これほどの信仰は、イスラエルの中でも見たこと
 16 がない」。
 17 10使にきた者たちが家に帰つてみると、僕は元気になつて
 いた。

7

11 そののち、間もなく、ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒にいった。

12 町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとつてひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。大ぜいの町の人たちが、その母につきそっていた。

13 主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。

14 そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まったので、「若者よ、さあ、起きなさい」と言われた。

15 すると、死人が起き上がって物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになった。

16 人々はみな恐れをいだき、「大預言者がわたしたちの間に現れた」、また、「神はその民を顧みてくださった」と言つて、神をほめたたえた。

17 イエスについてのこの話は、ユダヤ全土およびその附近のいたる所にひろまった。

18 ヨハネの弟子たちは、これらのことを全部彼に報告した。するとヨハネは弟子の中からふたりの者を選んで、19 主のもとに送り、『きたるべきかた』はあなたなのか。それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか、とヨハネが尋ねていませう。』と尋ねさせた。

20 そこで、この人たちがイエスのもとにきて言った、「わたしたちはバプテスマのヨハネからの使ですが、『きたるべきかた』はあなたなのか、それとも、ほかにだれかを待つべきでしょうか、とヨハネが尋ねていませう。』

21 そのとき、イエスはさまざまの病苦と悪霊とに悩む人々をいやし、また多くの盲人を見えるようにしておられたが、

22 答えて言われた、「行って、あなたがたが見聞きしたことを、ヨハネに報告しなさい。盲人は見え、足なえは歩き、らい病人はきよまり、耳しいは聞え、死人は生きかえり、貧しい人々は福音を聞かされている。23 わたしにまずかない者は、さいわいである」。

7

24 ヨハネの使が行つてしまうと、イエスはヨハネのことを群衆に語りはじめられた、「あなたがたは、何を見に荒野に出てきたのか。風に揺らぐ葦であるか。

25 では、何を見に出てきたのか。柔らかい着物をまとった人か。きらびやかに着かぎつて、ぜいたくに暮している人々なら、宮殿にいる。

26 では、何を見に出てきたのか。預言者か。そうだ、あなたがたに言うが、預言者以上の者である。

27 『見よ、わたしは使をあなたの先につかわし、あなたの前に、道を整えさせるであろう』と書いてあるのは、この人のことである。

28 あなたがたに言つておく。女の産んだ者の中で、ヨハネより大きい人物はいない。しかし、神の国で最も小さい者も、彼よりは大きい。

29 (これを聞いた民衆は皆、また取税人たちも、ヨハネのバプテスマを受けて神の正しいことを認めた。

30 しかし、パリサイ人と律法学者たちとは彼からバプテスマを受けないで、自分たちに対する神のみこころを無にした。)

31 だから今の時代の人々を何に比べようか。彼らは何に似ているか。

32 それは子供たちが広場にすわつて、互に呼びかけ、『わたしたちは笛を吹いたのに、あなたたちは踊つてくれなかつた。』

33 吊いの歌を歌つたのに、泣いてくれなかつた』と言うのに似ている。

34 またなら、バプテスマのヨハネがきて、パンを食べることも、ぶどう酒を飲むこともしないと、あなたがたは、あれは悪霊につかれていたのだ、と言ひ、

35 また人の子がきて食べたり飲んだりしていると、見よ、あれは食をむさぼる者、大酒を飲む者、また取税人、罪人の仲間だ、と言ひ。

36 しかし、知恵の正しいことは、そのすべての子が証明する」。

36あるパリサイ人がイエスに、食事を共にしたいと申し出たので、そのパリサイ人の家にはいつて食卓に着かれた。

37するとそのとき、その町で罪の女であったものが、パリサイ人の家で食卓に着いておられることを聞いて、香油が入れてある石膏のつぼを持ってきて、38泣きながら、イエスのうしろでその足もとに寄り、まず涙でイエスの足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐい、そして、その足に接吻して、香油を塗った。

39イエスを招いたパリサイ人がそれを見て、心の中で言った、「もしこの人が預言者であるなら、自分にさわっている女がだれだか、どんな女かわかるはずだ。それは罪の女なのだから」。

40そこでイエスは彼にむかって言われた、「シモン、あなたに言うことがある」。彼は「先生、おっしゃってください」と言った。

41イエスが言われた、「ある金貸しに金をかりた人がふたりいたが、ひとりは五百デナリ、もうひとりは五十デナリを借りていた。

42ところが、返すことができなかつたので、彼はふたり共ゆるしてやった。このふたりのうちで、どちらが彼を多く愛するだろうか」。

43シモンが答えて言った、「多くゆるしてもらったほうだと思います」。イエスが言われた、「あなたの判断は正しい」。

44それから女の方に振り向いて、シモンに言われた、「この女を見ないか。わたしがあなたの家にはいつてきた時に、あなたは足を洗う水をくれなかつた。ところが、この女は涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でふいてくれた。

45あなたはわたしに接吻をしてくれなかつたが、彼女はわたしがお家にはいつた時から、わたしの足に接吻をしてやまなかつた。

46あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかつたが、彼女はわたしの足に香油を塗ってくれた。

47それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」。

48そして女に、「あなたの罪はゆるされた」と言われた。

49すると同席の者たちが心の中で言いはじめた、「罪をゆるすことさえするこの人は、いったい、何者だろう」。

50しかし、イエスは女にむかって言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

1そののちイエスは、神の国の福音を説きまた伝えながら、町々村々を巡回し続けられたが、十二弟子もお供をした。

2また悪霊を追い出され病気をいやされた数名の婦人たちが、すなわち、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラと呼ばれるマリヤ、

3ヘロデの家令クザの妻ヨハンナ、サザンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒にいて、自分たちの持ち物をもって一行に奉仕した。

4さて、大ぜいの群衆が集まり、その上、町々からの人たちがイエスのところに、ぞくぞくと押し寄せてきたので、一つの譬で話をされた、

5「種まきが種をまきに出て行った。まいているうちに、ある種は道ばたに落ち、踏みつけられ、そして空の鳥に食べられてしまった。

6ほかの種は岩の上に落ち、はえはしたが水気がないので枯れてしまった。

7ほかの種は、いばらの間に落ちたので、いばらと一緒に茂ってきて、それをふさいでしまった。

8ところが、ほかの種は良い地に落ちたので、はえ育って百倍もの実を結んだ」。こう語られたのち、声をあげて「聞く耳のある者は聞くがよい」と言われた。

9弟子たちは、この譬はどういう意味でしょうか、とイエスに質問した。

10そこで言われた、「あなたがたには、神の国の奥義を知ることが許されているが、ほかの人たちには、見ても見えず、聞いても悟られないために、譬で話すのである」。

11この譬はこういう意味である。種は神の言である。

12道ばたに落ちたのは、聞いたのち、信じることも救われることもないように、悪魔によってその心から御言が奪い取られる人たちのことである。

13岩の上に落ちたのは、御言を聞いた時には喜んで受け入れるが、根が無いので、しばらくは信じていても、試練の時が来ると、信仰を捨てて人たちのことである。

14いばらの中に落ちたのは、聞いてから日を過ごすうちに、生活の心づかいや富や快楽にふさがれて、実の熟するまでにならない人たちのことである。

15良い地に落ちたのは、御言を聞いたのち、これを正しい良い心でしっかりと守り、耐え忍んで実を結ぶに至る人たちのことである。

16だれもあかりをともし、それを何かの器でおおいかぶせたり、寝台の下に置いたりしない。燭台の上に置いて、はいつて来る人たちに光が見えるようにするのである。

17隠されているもので、あらわにならないものではなく、秘密にされているもので、ついには知られ、明るみに出されないものはない。

18だから、どう聞くかに注意するがよい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っている人ほど持っているものでも、取り上げられるであらう」。

19さて、イエスの母と兄弟たちがイエスのところに来たが、群衆のためそば近くに行くことができなかつた。

20それで、だれかが「あなたの母上と兄弟がたが、お目にかかろうと思つて、外に立つておられます」と取次いだ。

21するとイエスは人々にむかって言われた、「神の御言を聞いて行う者こそ、わたしの母、わたしの兄弟なのである」。

- 22 ある日のこと、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われたので、一同が船出した。
- 23 渡って行く間に、イエスは眠ってしまった。すると突風が湖に吹きおろしてきたので、彼らは水をかぶって危険になった。
- 24 そこで、みそばに寄ってきてイエスを起し、「先生、先生、わたしたちは死にそうです」と言った。イエスは起き上がって、風と荒浪とおしかりになると、止んでなぎになった。
- 25 イエスは彼らに言われた、「あなたがたの信仰は、どこにあるのか」。彼らは恐れ驚いて互に言い合った、「いったい、このかたはだれだろう。お命じになると、風も水も従うとは」。
- 26 それから、彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡った。
- 27 陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。
- 28 この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いです、わたしを苦しめないでください」。
- 29 それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切っては悪霊によって荒野へ追いやられていたのである。
- 30 イエスは彼に「なんとという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がはいり込んでいたからである。
- 31 悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。
- 32 ところが、その山べにおびたし豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願ひ出た。イエスはそれをお許しになった。
- 33 そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。
- 34 飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。
- 35 人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところనికిて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。
- 36 それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。
- 37 それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。
- 38 悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しにした。
- 39 「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

- 40 イエスが帰ってこられると、群衆は喜び迎えた。みんながイエスを待ちうけていたのである。
- 41 するとそこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようにと、しきりに願った。
- 42 彼に十二歳ばかりになるひとり娘があったが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。
- 43 ここに、十二年間も長血をわずらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまつたが、だれにもなおしてもらえなかつた女がいた。
- 44 この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわつたところ、その長血がたちまち止まつてしまつた。
- 45 イエスは言われた、「わたしにさわつたのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言つたので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。
- 46 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわつた。力がわたしから出て行つたのを感じたのだ」。
- 47 女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわつた訳と、さわるとたちまちなおつたことを、みんなの前で話した。
- 48 そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救つたのです。安心して行きなさい」。
- 49 イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言つた。
- 50 しかしイエスはこれ聞いて会堂司にむかつて言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。
- 51 それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいつて来ることをお許しにならなかつた。
- 52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。
- 53 人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑つた。
- 54 イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。
- 55 するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをさされた。
- 56 両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

1それからイエスは十二弟子を呼び集めて、彼らにすべて
の悪霊を制し、病気をいやす力と権威とをお授けにな
った。
2また神の国を宣べ伝え、かつ病気をなおすためにつかわ
して
3言われた、「旅のために何も携えるな。つえも袋もパン
も錢も持たず、また下着も二枚は持つな。
4また、どこかの家にはいつたら、そこに留まっておれ。
そしてそこから出かけることにしなさい。
5だれもあなたがたを迎えるものがいなかったら、その町
を出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足か
らちりを払い落しなさい」。
6弟子たちは出て行って、村々を巡り歩き、いたる所で
福音を宣べ伝え、また病気をいやした。

7さて、領主ヘロデはいろいろな出来事を耳にして、あわ
て惑っていた。それは、ある人たちは、ヨハネが死人
の中からよみがえったと言い、
8またある人たちは、エリヤが現れたと言い、またほかの
人たちは、昔の預言者のひとり復活したのだと言っ
ていたからである。
9そこでヘロデが言った、「ヨハネはわたしがすでに首を
切ったのだが、こうしてうわさされているこの人は、
いったい、だれなのだろう」。そしてイエスに会ってみ
ようと思っていた。
10使徒たちは帰ってきて、自分たちのしたことをすべてイ
エスに話した。それからイエスは彼らを連れて、ベツ
サイダという町へひそかに退かれた。
11ところが群衆がそれを知って、ついてきたので、これを
迎えて神の国のことを語り聞かせ、また治療を要する
人たちをいやされた。
12それから日が傾きかけたので、十二弟子がイエスのもと
にきて言った、「群衆を解散して、まわりの村々や部落
へ行って宿を取り、食物を手に入れるようにさせてく
ださい。わたしたちはこんな寂しい所にきているので
すから」。
13しかしイエスは言われた、「あなたがたの手で食物をや
りなさい」。彼らは言った、「わたしたちにはパン五つ
と魚二ひきしかありません、この大ぜいの人のために
食物を買いに行くかしなければ」。
14というのは、男が五千人ばかりもいたからである。しか
しイエスは弟子たちに言われた、「人々をおおよそ五十
人ずつの組にして、すわらせなさい」。
15彼らはそのとおりにして、みんなをすわらせた。
16イエスは五つのパンと二ひきの魚とを手に取り、天を仰
いでそれを祝福してさき、弟子たちにわたして群衆に
配らせた。
17みんなの者は食べて満腹した。そして、その余りくずを
集めたら、十二かごあった。

18イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちが近く
にいたので、彼らに尋ねて言われた、「群衆はわたしを
だれと言っているか」。
19彼らは答えて言った、「バプテスマのヨハネだと、言っ
ています。しかしほかの人たちは、エリヤだと言ひ、
また昔の預言者のひとりが復活したのだと、言ってい
る者もあります」。
20彼らに言われた、「それでは、あなたがたはわたしをだ
れと言うか」。ペテロが答えて言った、「神のキリスト
です」。
21イエスは彼らを戒め、この事をだれにも言うなと命じ、
そして言われた、
22「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、
律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日目
によみがえる」。
23それから、みんなの者に言われた、「だれでもわたしに
ついてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の
十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」。
24自分の命を救おうと思う者はそれを失ひ、わたしのため
に自分の命を失う者は、それを救うであろう。
25人が全世界をもうけても、自分自身を失ひまたは損した
ら、なんの得になるうか。
26わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子
もまた、自分の栄光と、父と聖なる御使との栄光のう
ちに現れて来るとき、その者を恥じるであろう。
27よく聞いておくがよい、神の国を見るまでは、死を味わ
わない者が、ここに立っている者の中にいる」。
28これらのことを話された後、八日ほどたつてから、イエ
スはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山
に登られた。
29祈っておられる間に、み顔の様が変わり、み衣がまばゆい
ほどに白く輝いた。
30すると見よ、ふたりの人がイエスと語り合っていた。そ
れはモーセとエリヤであったが、
31栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げようとす
る最後のことについて話していたのである。
32ペテロとその仲間の者たちは熟睡していたが、目をさ
ますと、イエスの栄光の姿と、共に立っているふたり
の人とを見た。
33このふたりがイエスを離れ去ろうとしたとき、ペテロは
自分が何を言っているのかわからないで、イエスに言
った、「先生、わたしたちがここに居るのは、すばらし
いことです。それで、わたしたちは小屋を三つ建てま
しょう。一つはあなたのために、一つはモーセのため
に、一つはエリヤのために」。
34彼がこう言っている間に、雲がわき起つて彼らをおおい
はじめた。そしてその雲に囲まれたとき、彼らは恐れ
た。
35すると雲の中から声があった、「これはわたしの子、わ
たしの選んだ者である。これに聞け」。
36そして声が止んだとき、イエスがひとりだけになってお
られた。弟子たちは沈黙を守って、自分たちが見たこ
とについては、そのころだれにも話さなかった。

37翌日、一同が山を降りて来ると、大ぜいの群衆がイエスを出迎えた。

38すると突然、ある人が群衆の中から大声をあげて言った、「先生、お願いです。わたしのむすこを見てやってください。この子はわたしのひとりむすこですが、

39霊が取りつきますと、彼は急に叫び出すのです。それから、霊は彼をひきつけさせて、あわを吹かせ、彼を弱り果てさせて、なかなか出て行かないのです。

40それで、お弟子たちに、この霊を追い出してくださるようになり願いましたが、できませんでした」。

41イエスは答えて言われた、「ああ、なんとという不信仰な、曲った時代であろう。いつまで、わたしはあなたがたと一緒におられようか、またあなたがたに我慢ができませんか。あなたがここに連れてきなさい」。

42ところが、その子がイエスのところに来る時にも、悪霊が彼を引き倒して、引きつけさせた。イエスはこの汚れた霊をしかりつけ、その子供をいやして、父親にお渡しになった。

43人々はみな、神の偉大な力に非常に驚いた。

みんなの者がイエスのおられた数々の事を不思議に思っていると、弟子たちに言われた、

44「あなたがたはこの言葉を耳におさめて置きなさい。人の子は人々の手に渡されようとしている」。

45しかし、彼らはなんのことかわからなかった。それが彼らに隠されていて、悟ることができなかったのである。また彼らはそのことについて尋ねるのを恐れていた。

46弟子たちの間に、彼らのうちでだれがいちばん偉いだろうかということ、議論がはじまった。

47イエスは彼らの心の思いを見抜き、ひとりの幼な子を取りあげて自分のそばに立たせ、彼らに言われた、

48「だれでもこの幼な子をわたしの名のゆえに受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。そしてわたしを受けいれる者は、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである。あなたがたみんなの中でいちばん小さい者こそ、大きいのである」。

49するとヨハネが答えて言った、「先生、わたしたちはあんな人があなたの名を使つて悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちの仲間でないのです、やめさせました」。

50イエスは彼に言われた、「やめさせないがよい。あなたがたに反対しない者は、あなたがたの味方なのである」。